

2020年度

中堅看護職員研修会 アンケート結果

1. 日 時	2020年 9月 5日(土) 9:30～12:00
2. 場 所	看護研修センター 第一研修室
3. 参加者	108人 アンケート回収率 90.7% n=98
4. 内 容	DVD 「看護連盟紹介movie」「スローガン紹介movie」 講演 「看護連盟の現状と課題・続基礎研修」 講師 富山県看護連盟 会長 三谷順子 講演 「内外の諸情勢について」 講師 参議院議員 野上 浩太郎 先生

1 参加者の属性

職種

保健師	0
助産師	8
看護師	65
未記入	25

単位:人
年代

20歳代	22
30歳代	27
40歳代	26
50歳以上	9
未記入	14

2 講演1「看護連盟の現状と課題・続基礎研修」より看護連盟の役割・看護連盟の必要性について理解できましたか。

講義1



■ 理解できた ■ 理解できなかった ■ 未記入

(理由)

- ・ 現場の愚痴だけに止めず、発信していきたい。
- ・ 明るい看護の未来のため、参画が必要なことを理解できた。
- ・ 国会に送り出すことの必要性を理解できた(2件)
- ・ 役割について今まで以上に詳しくなることができた。
- ・ 選挙の大切さを理解できた。
- ・ DVDや三谷会長の講演から、昔から見るとかなり変わったことがわかった。今後を変えるためには、一人一人の行動が大切だと感じた。
- ・ 看護の専門職として発展してきたのは、連盟の活動歴史があったことを知ることができた。

- ・ 現場をよいものにするためには、政治への興味・関心を持ち、選挙に行くことが大事だと感じた。
- ・ 現場の声を反映させるためには、看護連盟の存在が必要だということがわかった。

3 講演2 参議院議員 野上浩太郎先生「内外の諸情勢」の講義内容から看護職能として政治や政策との関連や必要性について理解できましたか。

講義2



■ 理解できた ■ 理解できなかった ■ 未記入

(理由)

- ・ 看護に関する政策について学べた。
- ・ 政治を通さないと実現できないことが多いと思った。
- ・ 体験談がほとんどであった。
- ・ 看護の政策について詳しく知れた。
- ・ 興味を持つことができた
- ・ コロナ対応の慰労金や物資の配布対応がされている (3件)

- ・ 政治の場に現場の今の声が必要。想像ではなく。
- ・ 看護師が少ない日本の現状について理解できた。
- ・ 多重業務の状態は先生が言われた通りであり、現状が伝わっているのに、どうにもならないのだなと思った
- ・ 安倍首相と政治について、ニュースだけでは知れないことについての知ることができ面白かった(2件)
- ・ 政策が動くことで現場に還元されることが多いため、政治へ現場の声を届けることが大切だと思った。
- ・ 人が不足、給料も低いことを国にわかってもらっているが、これからどう改善されるか期待したい。

4 あなたは施設のリーダー、サブリーダーを知っていますか。

- 1) リーダー ① 知っている 63人 (65%) ② 知らない 34人 (35%)
2) サブリーダー ① 知っている 52人 (54%) ② 知らない 41人 (43%) ③ 未記入 3名 (3%)

- 5 リーダー、サブリーダーが活動する上で中堅看護師として今後、どのような協力が出来ますか。また、どのような活動を期待していますか。
- ・スタッフ間でコミュニケーションを取りながら、業務していく。
 - ・連盟研修会や集まりへの参加・協力をしていく(2件)
 - ・選挙の時は、連盟の活動と意義を伝え、推薦議員に投票をしてもらうように協力をする(7件)
 - ・現場の声、現状を報告していくこと(5件)
 - ・連盟会員の増員に向けて、病院で声をかけていく(2件)
 - ・選挙への関心をメンバーにもってもらふ。・期日前投票を進め、声掛けをする。
 - ・勤務体制の改善(業務改善)に対して案を出すなど協力していきたい。
 - ・コロナ下の中、集まる機会が減っているが、3密を避け、できる限りの活動を知っていただく場や時間をもち、活動していきたい。
 - ・連盟のDVDの視聴を勧める。・職種間の情報共有。
 - ・新人や自分より後輩になるスタッフに声掛けをし、サポートする(2件)
 - ・しっかりと自分にできる役割を果たしたい。
 - ・病棟内で連盟について、若手職員に知識を普及させる(2件)
 - ・政治に関心をもち、参画する姿勢。
 - ・職場内(病棟)のリーダーが困らないように支えていく。上下関係のバランスをとる。リーダーが若手の場合、先輩の人に気を使っている。
 - ・選挙投票を周囲に呼びかけ、国会で看護師の労働改善を訴えていただけるようにサポートする。
- 6 看護連盟では、皆様からの「現場の声」を聴かせて頂き今後の活動に繋げていきたいと考えています。(現場でおきている問題等、具体的に記載してください)
- ・ワークライフバランスといわれているが、業務はむしろ増えており実践できていない。
 - ・残業が多く、人手不足(8件)・勤務時間前残業が通常化している。
 - ・パワハラと、業務量の多さに疲れている。
 - ・独居・認知症の合併等により、疾患は改善しても生活の場が整わず、入院期間の延長になっている(2件)
 - ・中堅看護師の不足。結婚・出産を機に退職してしまう。
 - ・院内保育、病児保育の環境が少ない。子育てとの両立が困難である。
 - ・勤務開始時間と外来診察開始時間が同じであり、早く出ていかなければ仕事が回らない。
 - ・当直手当が少ない。給料が低い。・新人看護師の質の低さ
 - ・オンコールの勤務(1回/週程度)が多く、労働基準に引っかかるが、あえて、訴えてないだけで善意でボランティアの仕事になっている。
 - ・トップ陣のコロナ対策が甘い。一部の患者様の付き添い許可を県外在住に出し、また面会許可も出す時がある。場合によっては小児も含まれている。どれほど声を出しても聞き入れられず、病院別ではなくコロナ感染予防対策を県または、全国統一してほしい。
 - ・土日は子供と過ごせる時間ですが、交代で出勤している。土日手当が付いたらいいと思う。
 - ・看護連盟の政治活動は理解できたが、成果としてわかりにくい。
 - ・看護師の人数が減り、平日も休日も同じ人数で働いている。先が見えない。夜勤も16時間の夜勤を3人でしている現状にあり、事故も起きている状況。スタッフの皆が疲れている。
 - ・社会との関わりが少なく、得られる制度に理解が乏しい等、申請者はもちろん周りのサポートも少ない感じがする。是非、年金と併せて必要の有無や知識の提供も含めて、受給時に義務化してほしい。
 - ・準夜勤の人数が少ないため、休憩時間が取れないことがある。(3人準夜勤)
 - ・時短・パート勤務が考慮されず、常勤以上に働かされている。
 - ・夜勤帯で病床数が多くなると、3人では人手が足りなくなり、勤務時間を超過してしまうことがある。
 - ・時短看護師が頑張っているが、夜勤ができる看護師が少なく、みんなが疲れている。
 - ・高齢化、介護度の増加、記録物が多く、看護ではなく業務になっている。PNSを導入してからは、年配者への負担が多く疲弊している。生活のため仕事として割り切っているが、早く辞めたいという人ばかり。看護の質はどんどん下がってきている。看護部は理想ばかりで現状をみていない。
 - ・労働環境が悪い。休日が思うようにとれない。有休が全くとれない。タイムカードを押してからのサービス残業。
 - ・研修や委員会の仕事が多すぎて、業務の他にもすることが山積みである。毎日がとても疲れる(2件)
 - ・期日前投票日が延びない。
 - ・育休明けの看護師は時短制度を活用しながらも働いているから、業務が多忙で時間内に業務が終わらず、仕事と家庭の両立が難しく大変である。看護師を続けたくても両立できずに辞めるスタッフがいるのは残念。経験が豊富で看護観がある人が辞めることは、未来の看護を担う新人や学生も育たない。
 - ・超高齢化社会になり、急性期病院では高齢者と中高年患者での揉め事が増えている。中高年患者は我慢できない人も増えており、モラハラやセクハラ等も増えている。患者第一という理念のもと看護師が危険な思いをしても報われない。コロナ禍で看護業務以外の業務が増え、現場の看護師の負担が増えて理不尽な医師への対応がある。